

皆さんこんにちは。札幌の 73 才の OB 倉西です。

私は 1973 年 3 月の卒業ですが、3 年生の時に専用道場が落成し 4 年生の時に体育会昇格を果たしました。まず体育会昇格についてですが、そのころ合気道は体育会の一員ながら「新種目団体」という別グループに位置付けられていました。当時の部長であった医学部の細谷英吉教授が一日も早い正式な部への昇格を方針として打ち出され我々を支えて下さいました。そこで主務であった私はいよいよ動きます。

1 年間、毎日のように三田の塾管局にあった体育会本部に顔を出しました。ここには野球部、剣道部など体育会各部から選出された学生常任委員が詰めているため彼らに合気道の顔を売りたいかったです。けっこう勇気がいりました。しかしありがたいものでだんだんその顔が売れてまいりまして常任委員の学生達から自然に声をかけてもらえるようになりました。今でもその日付を覚えています。1972 年 4 月 20 日です。体育会会議において塾の 36 番目の部として体育会昇格が可決されました。体育会を目指しながらも当時は試合がなかったためこれがネックになる可能性がありましたが、山岳部にも試合はなかったことと 6 大学のほとんどに体育会合気道部のある事でこの問題はクリアできました。すべての部の集まるこの会議で全員賛成で承認されたのです。私の周りにいた体育会常任委員たちから握手を求められました。もちろん細谷部長には胸を躍らせて昇格決定を報告しました。

その前年 1971 年の秋だったと思います。蝮谷に合気道専用道場が完成しました。当該道場で行われた祝賀パーティーには体育会関係者をはじめたくさんのお客様がおいでになり最後は藤平光一師範が演武で締めくくって下さいました。道場建設費用は、まだ人数の少なかった当時の OB の皆さんの寄付金がベースでしたが、我々現役もデパート配送センターで集団アルバイトをして協力させていただきました。今、私は、半世紀の長い年月にわたり風雪に耐えて 400 名を超える合気道部 OB を世に送り出してくれた現在のマムシ谷道場に心からのキスをささげたい気分です。

そしていよいよ新道場建設プロジェクトが立ち上がりました。50 年前と比較すると総工費も桁違いに高額であり、協力を求める OB の数も 5 倍以上に増えており、計画実行には多くのハードシップが予想されます。しかし合気道三田会と現役部員が一丸となれば必ずやこのプロジェクトは達成できると信じます。

卒業後 50 年、私は合気道をやめることなく続けています。今は酪農学園大学という酪農、獣医系の大学で合気道部を指導しています。札幌から車で 1 時間ほどのところにある小さな大学ですが敷地は広大で農場には牛が放牧され、トウモロコシ畑の向こうには地平線が見えます。この北の果ての大学で皆さんと同じ慶応スタイルの合気道が伝承されていることに我ながら誇りとやりがいを感じています。長くなりますのでこのあたりで失礼します。慶応大学体育会合気道部のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。ありがとうございました。

以上